

NP0 法人グループリビング川崎 COCO 宮内

川崎市社会福祉大会で、川崎市長賞を受賞！！



大会後の記念写真 NP0 法人グループリビング川崎の原真澄美理事長と関係者

グループリビング COCO 宮内を運営する NP0 法人グループリビング川崎が、第 60 回川崎市社会福祉大会（主催：川崎市・川崎市社会福祉協議会）において「川崎市長賞」を受賞しました。授賞式は 10 月 25 日に開催され、多くの関係者がその栄誉を祝いました。

大会で配布された冊子には、同法人の活動について次のように紹介されています。

「高齢者が地域とつながりながら自分らしい暮らしができる住まい『グループリビング』を運営し、様々な教室や行事を開催。居住者と地域住民の交流を促進することで、地域コミュニティの活性化や多世代交流など地域福祉に大きく寄与している」。

この受賞は、グループリビング川崎の取り組みが地域社会に大きな貢献を果たしていることを証明するものです。関係者の皆様の長年にわたる努力が認められた結果であり、今後の活動への励みとなるでしょう。

この受賞はグループリビングという新しい住まい方のモデルが広く認知される契機ともなり、今後の普及や発展に大きくつながることが期待されています。地域に根ざした福祉の形として、グループリビングの居住者が地域住民の 1 人として共生する新たなコミュニティの在り方が、さらに広がっていくことが注目されます。

◆◆◆ グループリビングの近況報告 ◆◆◆

2024年に3つ目のグループリビングを開設

一般社団法人 HAHA オーナーズテラスⅢ

「オーナーズテラス自由が丘」は、株式会社ハピネスランズと一般社団法人 HAHA が共同で進めるプロジェクトです。株式会社ハピネスランズは建物の提供だけでなく、実家の売却、相続、空き家管理のサポートも行い、一方で一般社団法人 HAHA はグループリビングや訪問介護ステーションを運営。さらに、目黒区で唯一の居住支援法人として、地域の住まいに関する幅広い支援を提供しています。

プロジェクトは2020年に国土交通省の「住まい環境整備モデル事業」として「オーナーズテラス自由が丘Ⅰ」を開設したのを皮切りに、2022年に「自由が丘Ⅱ」、そして2024年には「オーナーズテラス自由が丘Ⅲ」を運営しています。

最新の「オーナーズテラス自由が丘Ⅲ」は、一軒家タイプで築30年の建物を改築したもの。木造の落ち着いた雰囲気が特徴で、居室は5室あります。そのうち3室が高齢者向けの居室で、和室と洋室の選択が可能です。残る2室は、モンゴル人留学生や鍼灸師スタッフが住む部屋として活用されています。

現在、高齢者向けの居室では新たな居住者を募集中です。この住まいでは、異なる背景を持つ人々が共に暮らし、支え合う「多様な共生」を実現しています。



オーナーズテラス自由が丘Ⅲ



居住者とスタッフの皆さん



居室



ダイニング・リビング

ウェイティングリスト 17 人の人気のグループリビング

NP0 法人北部グループリビング COCO せせらぎ

NP0 法人川崎北部グループリビングが運営する「COCO せせらぎ」は、過去 3 年間退去者が出ておらず、満室状態が続いています。この安定した状況により、居住者の平均年齢は 82 歳に上昇し、高齢化が進行しています。現在、居住者 10 名のうち 5 名が要介護 1 または 2 の認定を受けていますが、ヘルパーの支援を受けながら元気に日々を過ごしています。

「COCO せせらぎ」の最大の特徴は、居住者が運営に積極的に関わっている点です。1 年交代で代表 2 人が理事会や月 2 回の運営委員会に参加し、入居者会議で話し合われたことを伝え議論がおこなわれます。また、居住者が会計管理を行い、食材費の値上がりによる食料料金の見直しも皆で考え意見を出すなど、「COCO せせらぎ」の居住者は住まいの運営を自主的に行っています。

また、江川せせらぎ遊歩道沿いに建つ立地を活かし、地域とのつながりも深く、体操教室やカフェを主催し、地域住民との交流を活発に行っています。居住者同士の絆も強く、麻雀を楽しんだり、「終の住み家プロジェクト」を立ち上げたりと、将来について共に考える勉強会も開催しています。

「COCO せせらぎ」は、その活動の充実ぶりから注目を集めており、現在ウェイティングリストには 17 名が登録されています。ホームページでの活動報告「COCO せせらぎに暮らして」への入居者やスタッフの投稿は、せせらぎの暮らしや入居者の顔が見えると好評です。入居希望者と入居者を対象とした交流イベントなども開催されて事前に交流を深めるなど、新しい入居希望者が絶えません。

一方で、高齢化が進む中で、運営に関与することが難しくなる可能性が課題として挙げられています。今後は、これまでの自主運営を維持しながら、高齢化に対応した新たな仕組みを構築することが求められています。地域とのつながりを大切にしながら、居住者が安心して暮らせる「COCO せせらぎ」の取り組みは、これからも多くの人々に注目され続けることでしょう。



1 月 15 日（水）に開催された COCO せせらぎ・交流の広場での写真です。地域の方と入居者が交流でき、より地域と密接に生活できるという事で、今年からせせらぎカフェから名称を変更しました。20 名程の参加があり、盛況でした。

助け合いの精神

NPO 法人いぶりたすけ愛 たすけ愛の家

グループリビングの定員9名ですが、現在ゲストルームに1名が住んでおり、10名が生活しています。最近夫婦での入居が増え、3組の夫婦が暮らしています。居住者の年齢構成は90代が5名、80代が3名、70代が2名で、平均年齢は87.1歳と高齢ですが、過去には90歳を超えたこともあり、若干低下しています。他の施設と比べても高齢化が進んでいるものの、同じ建物にケアマネージャーに常駐していることや、迅速なヘルパー対応、昼夜2回の食事の提供、たすけあい活動、活発な地域交流や趣味活動などの充実したサポート体制が、高齢化しても安心して生活できる環境を支えています。

現在、介護保険の利用者は3名で、元気な居住者は買い物や病院の付き添いなどで他の居住者を支援するほか、近隣施設の駄菓子屋で店番を担当するなど地域社会とも関わりを保っています。このように、助け合いの精神を軸に、高齢者同士が役割を持ちながら地域と共生して暮らしています。



夕食の様子

地域と共に歩むグループリビング・ショートステイで新たな展開

NP0 法人暮らしネット・えん えんの森

NP0 法人暮らしネット・えんが運営する「えんの森」では、定員 10 名で現在満室になっています。コロナ禍の影響で退去や入居者の死別があり、開設当初からの居住者は 1 名のみとなりました。現在は「2 クール目」として、新たな入居者を迎えながら運営が続いています。居住者の年齢層は 76 歳から 91 歳で、近年は 80 歳以上の高齢者の入居が増えています。

「えんの森」の特徴は、地域との密接なつながりを重視している点です。ショートステイされた方の紹介がきっかけで体操教室を始めたり、地域福祉の集いに参加したりと積極的に地域活動に参加しています。こうした交流を通じて、「えんの森」は地域の中にしっかりと根付いた存在となっています。

また、退院後の療養やバリアフリーの住環境を求める人、また、ちょっとした介護が必要な際に利用できることから、「介護施設を利用するほどではないが、一時的に支援が必要」という人々にとって最適な選択肢となっている。特に近隣住民の利用が多く、「次回は入居を前提に利用したい」といった声も寄せられており、グループリビングの存在を知るきっかけにもなっています。運営者によると、「専用の部屋を設けることが理想だが、入居希望者を優先しながら、空室がある際には積極的にショートステイに活用していきたい」との方針を示している。高齢化が進む中、地域のニーズに応じた柔軟な対応が求められている。入居者と地域住民双方に安心と快適を提供する「えんの森」の新たな展開に期待が寄せられています。



法人主催で毎年開催しているコンサート

先輩高齢者と若手高齢者の共生を目指す住まい

NPO 法人結いのき COCO 結いのき・花沢

NPO 法人結いのきが運営する「COCO 結いのき・花沢」では、1号館と2号館はこれまで、定員が10室でしたが、ゲストルームを居室に変更し、それぞれ定員11室にしました。現在、1号館には10名、2号館には11名が居住しており、さらに2月には2号館に1名が、新たに入居予定です。

1号館は70歳前半から90歳後半の高齢者が入居しています。一方、2号館には若手高齢者が多く、働いている居住者が2名いるなど、多様なライフスタイルが共存しています。特に、2号館に住む75歳の居住者は、住まいの見守り役としても活躍しています。また、1号館には同様の役割を担う法人理事が居住し、両館の運営と住民サポートを支えています。

入居促進に向けて、「みんなの介護」への登録やこれまでに培ってきた幅広いネットワークを通じた紹介、冬季に限定した入居の提案、居宅介護支援事業所への定期的な訪問など、多角的な取り組みを展開中です。しかし、これまでのところ契約に結びつくケースは少なく、広報活動のさらなる強化が課題とされています。

「COCO 結いのき・花沢」は、高齢者が安心して暮らせる環境を提供すると同時に、若手高齢者や働いている居住者が役割を持ちながら地域社会に貢献する新しい形の共生モデルを目指しています。



結いのき協同センターで行われた「結いのきクリスマス」 1

家庭的な雰囲気の中で支え合う暮らし

NPO 法人てのひら てのひら

現在、「てのひら」には90代の居住者が2人、80代が3人、そして70代後半の方が1人お住まいです。居住者の皆さんは元気な方から介護が必要な方まで幅広く、日常生活を支える支援体制が整っています。

かつてお元気だったMさんは、最近は部屋に閉じこもりがちになることが増えました。しかし、階下のデイサービスを利用したり、職員の声かけに応じたり、時には隣接する鍼灸院に出向かれたりと、無理のない形で日々の暮らしを続けられています。「十年も過ぎると、出来ていたことが少しずつ難しくなりますが、それでもデイサービス、ヘルパー、訪問看護などを活用して、安心して暮らされている」と理事長の石原智秋さんは語ります。

居住者の生活を支えるため、平日には階下でミニデイサービスが開かれています。日曜日には本体施設で小物作りや体操、コーラスといった活動が行われており、積極的に参加される方も。介護が必要な方は、地域のヘルパーやデイサービスを利用しながら、それぞれのペースで生活を続けておられます。

「てのひら」の最大の特徴は、若い時期から入居し、年齢を重ねながらも住み慣れた場所で生活を続けられる点にあります。この継続性が居住者の安心につながっていますが、一方で、さらなる高齢化への対応が課題として挙げられています。持続可能なケア体制の構築が求められる中、スタッフは「小規模だからこそ可能な家庭的な雰囲気を大切にしながら、一人ひとりの多様な暮らし方を尊重していきたい」と話しています。

今後も「てのひら」は、居住者が安心して暮らし続けられるよう、地域との連携を深めながら家庭的なケアを追求していく方針です。



クリスマス会

地域に根ざした新しいグループリビング、入居者募集を強化

一般社団法人自立と共生のくらし COCO 多治米

「COCO 多治米」は、グループリビング運営協議会の中で最も新しい施設として、2023 年 4 月に「一般社団法人自立と共生のくらし」によって設立されました。現在、COCO 多治米には 3 名の入居者が暮らしており、さらに 1 名が入居を予約しています。

入居者のうち 2 名は 69 歳と 74 歳の夫婦で、もう 1 人は理事長を務める中川恵子氏です。中川氏は現在、自宅とグループリビングを行き来する生活を続けており、近い将来、完全にグループリビングへ移る予定です。入居者募集に向けて、COCO 多治米では積極的に広報活動を展開しています。福山市や尾道市でチラシを配布したところ、問い合わせや見学希望が増加中です。また、不動産業者と連携し、入居希望者が自宅を処分する際の相談ができる体制を整えるなど、幅広い支援を提供しています。

広報活動や支援体制の充実を通じて、今後さらなる入居希望者の増加を目指す COCO 多治米。地域に根ざし、「自立と共生」の理念を実現するこの新しいグループリビングの取り組みは、福山市周辺の高齢者に新たな住まいの選択肢を提供するものとして注目されています。



食事会

グループリビング運営協議会 交流会のお知らせ

グループリビング運営協議会では、会員や関係者の皆様の交流と学びの場として、3月29日（土）・30日（日）に交流会を開催いたします。リアルとオンラインのハイブリッド開催となりますので、ぜひご参加ください！
詳細な情報と参加申し込み方法については、後日改めてご案内いたします。

【1日目】グループリビングのコミュニケーションを豊かに！

 日時：3月29日（土）13:30～17:00

 場所：プラウドシティ元住吉パーティールーム + オンライン
(川崎市中原区井田三舞町15-1 / 最寄駅：元住吉駅)

 アクセス：新横浜駅から約25分、羽田空港・東京駅から約1時間

◆ 内容：

-
- コミュニケーションをテーマにした講演&ディスカッション（内容調整中）
※この講演のみ、主催：NP0 法人COCO 湘南・中西基金 / 共催：グループリビング運営協議会
 - グループリビングの近況報告（GL運営者・居住者等）

 対象：グループリビング運営協議会会員および関係者

 夜の交流会：元住吉付近で開催予定

 宿泊情報：

会場前に「国際交流センターホテル（2年前にリニューアル）」があります。

 定員：29名

【2日目】共に暮らすことを学ぶ

 日時：3月30日（日）10:00～12:00

(※午前を中心とした開催ですが、多少変更の可能性があります)

 場所：コレクティブハウスかんかん森+オンライン
(東京都荒川区東日暮里3丁目9-21 日暮里コミュニティ2階)

◆ 内容：

-
- デンマークのコ・ハウジング報告（講師3名による発表、計45分）
 - コレクティブハウジングの説明・見学（計60分）

 対象：グループリビング運営協議会会員および関係者

 定員：50名

ご興味のある方は、ぜひご参加ください！

詳細・申し込み方法については、後日お知らせいたします。

ご不明点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

皆様のご参加をお待ちしております！

グループリビング運営協議会メンバー募集中

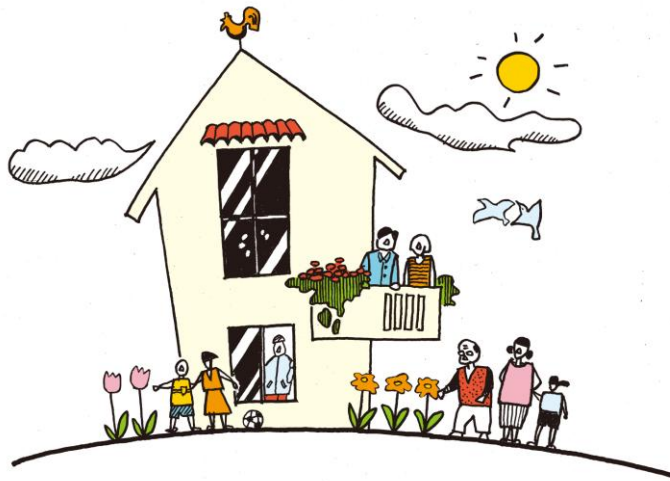
グループリビング運営者はもとより、これから作りたい人、応援したい人、研究したい人、興味がある人、またグループリビングという名称に拘らず、グループリビングに類似した共生の住まいも対象にしております。

【活動内容】

1. グループリビングへの支援・相談
2. ワークショップの開催
3. ホームページの運営
4. グループリビングの調査研究
5. その他、本協議会の目的を達成するために必要な事業。

*詳細は以下の URL にあります。

<http://glnet-groupliving.org/glnet/glnet-recruit>



編集後記

今回の会報では、各地域で展開されているグループリビングの取り組みを紹介しました。それぞれのグループリビングが、地域に根ざした独自の活動を通じて、居住者同士の助け合いや多世代交流を実現している姿が印象的でした。川崎市長賞を受賞した「COCO 宮内」の功績は、地域社会への貢献がいかに評価されているかを示す象徴的な出来事です。これを契機に、グループリビングという新しい住まい方のモデルがさらに認知され、広がっていくことが期待されます。また、いくつかの事例からは、異なる世代やバックグラウンドを持つ人々が共に暮らすことで生まれる多様性と、その中で育まれる絆の強さが伝わってきます。特に、居住者が自主的に運営に関わる姿勢や、地域住民との交流を積極的に進める姿は、グループリビングの魅力の一端を示しています。しかし、高齢化に伴う課題も見逃せません。居住者が高齢化する中で、運営の責任が増し、今後の持続可能な運営方法の模索が求められています。自主性と支援のバランスをどのように取るかは大きなテーマとなるでしょう。グループリビングは、多世代が共に支え合いながら暮らす新たな住まい方として注目される一方で、持続可能な運営に向けた課題も浮かび上がっています。今後は、地域や行政、専門家と連携しながら、より安定した運営体制を築くことが求められるでしょう。

今回紹介した事例からも分かるように、グループリビングは単なる居住の場にとどまらず、地域社会とのつながりを生み出し、共生の場としての役割を果たしています。この取り組みがさらに広がり、多様な世代や価値観を持つ人々が安心して暮らせる社会の実現につながることを期待したいと思います。(な)